学校通信　椙小　春休み号
2018（平成30）年　3月20日
椙山女学園大学附属小学校

未来に向かう学びを

校長　森　和久

お子様の学年の修了、まことにおめでとうございます。

小学校の時期の子どもの成長には目覚ましいものがあり、一年間でも心身ともに大きな成長が感じられます。きっとこの一年の間でお子様の成長が感じられた瞬間がいくつかあったのではないでしょうか。どうかお子様と一緒に成長の足跡を振り返り、褒めてあげてください。

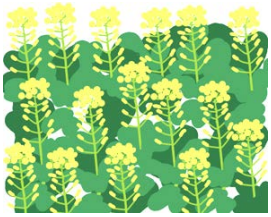
さて、これからの時代は予測困難な時代と言われていますが、比較的確からしい予測として、日本の人口が大きく減少するとともに高齢者の割合が高くなるということがあります。この人口減少、高齢化に伴って、人の生き方、働き方も大きく変わっていくと考えられます。その中で、女性の生き方、働き方のありようが、これまで以上に社会に大きな影響を与えることとなるであろうと考えられています。「女性の活躍なくして日本の未来はない」とすら言えるかもしれません。

女性の雇用拡大はさらに進んでいくでしょうし、社会のあらゆる場面での意思決定過程へ参画が進むでしょう。そして男女が協力して子育てや教育を行うことができるよう、仕事と家庭の両立を支援する環境も整えられていくと思います。そうした中において、自立した一人の女性としてよりよい人生を送り、人と協働してよりよい社会を築いていくための資質・能力を培う基盤づくりが義務教育には求められています。

本学園は、女性への教育が当たり前ではなかった時代より、女子教育を先進的に進めてきておりますが、これからの時代だからこそ、一層女子教育の意義は高まってくると考えます。

「人間になろう」という学園の基本理念のもと、「自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力を養う」「自立し協働できる人を育てる」ということを目指し小学校教育を行っているところですが、今の学年の学びを発展させ、次の学年でさらに何をどう学んでいくかということがとても大切です。

知識の習得を中心として、「正解」に効率的に到達する能力を身につけるだけでは、十分ではありません。これまでの「正解」はもう「正解」として通用しないかもしれません。自分の価値観をしっかりと持ち、異なる価値観も理解をしたうえで、どのように調整を図るか、新たな価値を創造するか、そのための思考力、判断力をつけるための学びこそが大切です。



本校が、そうした有意義な学びの場となるために、今後一層教育内容・教育方法を工夫改善して参ります。具体的には、朝礼の時間にも一貫して話をしてきておりますし、この学校通信でも何度か書かせていただいておりますが、自分の頭で考える時間を十分取り、集団の中での関わりを大事にしつつも、人に流されるのではなく、自分の考えをしっかり持ち、その上で意見を交流し合い、新たな価値を見いだしていくという学習過程を大切にし、教科の学習のみならず、日常の生活場面を含めた一貫したカリキュラム、学びのあり方をさらに工夫して参りたいと考えております。

最後になりましたが、保護者の皆さまには、この一年本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきまことにありがとうございました。来年度も変わらぬご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。